

人にやさしいまちを目指して
～平成 27 年度 早島町福祉映画会～

未来に届ける映画

見えないから 見えたもの

拝啓 竹内昌彦先生

逆境を跳ね返す強い力。

原作／竹内 昌彦 著『見えないから見えたもの』 監督／山本 守 脚本／加瀬清志 柳沢知恵
出演／真砂 豪 木庭容子 熊谷大祐 岡崎有功 古賀由香里 他 特別出演／白鵬 翔 森未慎二 有森裕子

モンゴルに視覚障害者の職業訓練学校を設立した元県立岡山盲学校教頭・竹内昌彦先生の貴重な半生を描いた、愛といのちの物語——



平成 28 年

1 / 23 土 開演 14:00 (開場 13:30) (閉演 16:00)

入場無料

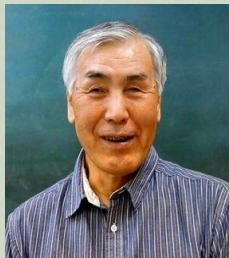
会場 早島町町民総合会館「ゆるびの舎」文化ホール (都窪郡早島町前湯 370-1)

申込 入場整理券を発行しますので、事前に下記までお申し込みください (日曜以外開館)。
託児や介助等、鑑賞にあたり何らかの配慮が必要な方は 1/16 迄にお申し出下さい。

社会福祉法人 早島町社会福祉協議会 (事務局 TEL 086-482-3000)
<http://www.hayashima-shakyo.jp/> E-mail: hayasyakyo@vp.tki.ne.jp

<共 催> 早島町

<協力団体> 早島いぐさ手話サークル、はやしま朗読ボランティア福来朗、早島要約筆記サークルペンしる、
パソボラはやしま、絵手紙ボランティアやまびこ、日曜大工ボランティアとんかち、
給食ボランティア (クローバー・コスモス・スプリング・たんぽぽ・マスカット・ひまわり会・
スマイル若宮・市場撫子の会)、早島町民生児童委員協議会、早島町福祉活動員協議会、
特定非営利活動法人ふれあいネットはやしま、早島町婦人会、早島町保護司会、早島町更生保護女性会他



竹内昌彦氏

岡山県立岡山盲学校講師
岡山県視覚障害者協会理事
岡山ライトハウス理事

昭和二十年二月十七日、竹内昌彦は父の赴任先である中国天津で生まれた。その僅か半年後、終戦の日を境に、天津の日本人の生活は一変した。許された最低限の荷物を持って、日本に引き揚げることになった一家は、遠い道りを無事港へとたどり着いた。何も知らぬまま日本行きの船に乗せられた産まれたばかりの赤ん坊はこのとき、栄養も薬も無い船の上で肺炎の高熱に襲われた「この子は助からん。死んだら日本海に捨てるしかないだろう。」乗り合わせた医者に、ここまで言わしめた昌彦だったが、奇跡的に助かる。

5年後まず右目に重大な病気の爪痕が露呈する。「ひんがら目のちび」同級生のいじめが始まった。父の転勤で矢掛町から岡山市へ転校したあともいじめは続いた。しかし、昌彦の昌彦たる所以。彼は“心も身体も強かった”消火器の泡、砂場の砂、あらゆるものを味方につけ、いじめに立ち向かった。そんな竹内を人との出逢いが変えてゆく。恩師、島村先生は、この時代からすでに、障害者を自発的にいたわろうとする気持ちをクラスに根付かせていった。そして1953年、完全に視力を失った昌彦は盲学校へ。



「オール5」を取った昌彦に担任の先生が言った言葉が、彼のその後の人生の指標となる。「あなたは自分の成績だけが良かったらいいと思っているでしょう。勉強がようわからなくて困っている友達に親切に教えてあげられるようになったとき、あなたの『5』は本物になるんよ。」 「目が見えんのじゃから体ぐれえは丈夫に作っとかにやあいけあが。」父は近郊の山登りで徹底的に彼を鍛える。目は見えないが、頑強な精神と、肉体を併せ持つ若者がこうして誕生した。昭和39年、東京パラリンピックの選手に選ばれた昌彦。当時の岡山駅に関係者が集まった。発車のベルが鳴り終り、列車は動き出す。



文字通り、昌彦の旅はここから始まる。しかし、それは苦難との戦いの連続。親の反対を乗り越えての結婚。盲学校の教師として経験してゆく感動や挫折。それらは大きなうねりとなって「夢の実現」へと彼を導いてゆく。知れば知るほど、この波乱万丈の物語は、単なる視覚障害者のサクセスストーリーなどという範疇では語りきれない。

その万歳こそは、全盲の我が子をここまで立派に育て上げた、父の勝利宣言だった。

